令和5年度　　学校評価（自己評価表）　　米子北高等学校

建学の精神	基本的生活習慣（躾）の育成をとおして、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域から応援してもらえる学校を目指す。
学校 教育目標	【input】【thinking】【output】《reflection》 4つの行動で、 ①対話力の向上を目指して社会で生きる力を身につける。 ②学習習慣の確立を目指して「学びに向かう力」を身につける。	今年度 重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着 2. 基本的生活習慣と規範意識の確立 3. すべての人にとって、安全・安心な学校生活空間 4. 地域に信頼される教育・ 地域の人が自慢できる学校づくり 5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価 中間	自己評価 最終	関係者評価	評価に対するコメント・改善方策
1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着	教務	指導法の研究と評価法の検証 chromebookを活用した家庭学習法の推進	ほとんどの教室にホワイトボードとプロジェクターが設置され、教室移動をしなくてもICTを活用した授業が行えるようになり、とても快適になっている。また、Googleの教育サービスを活用し、タブレットを活用した授業や電子的な提出方法について、取り組みが進ん	新学習指導要領に対応した学習評価方法の運用に向けて、各教科で情報交換をしながら、効率良く評価をするための材料を準備し、より適切な学習評価ができるように改善点を	生徒が効率良く学習できるようICT設備と教科書の教授資料をしっかりと活用する。また、タブレットを活用するため、電子的な提出方法についての取り組みを広げていく。教科書だけでなく問題集や参考書も合わせた生徒の一連の学習活動が円滑に行えるような教材の選定が重要となる。					
	進路	進路保障を担う進路指導の充実	昨年度の専門学校・短期大学・四年制大学に進学した生徒は161名となり全体の７１%に値する。そのうち、看護専攻科に内部進学した生徒を除けば、６１%が県内外へ進学していったことになる。受験形態の内訳は、以下になる。総合型選抜３４%、学校推薦型選抜５２%、一般選抜１４%で	昨年度も総合型選抜や学校推薦型選抜など、年内に合格を決定する生徒が８６%をしめ、実態に合った指導が求められる。具体的には実用英語技能検定2級取得・GETOEスコア880点以上、志望理由書・小論文対策である。	＜1年次＞職業観を育てるため、地元で活躍される社会人にお越しいただき、職業ガイダンスや職場体験を展開する。「働くとは」「お金を儲けるとは」「社会に貢献するとは」「仕事の面白さ、やり甲斐」など、聞いたり見たり経験することで社会人先生から学ぶ。 ＜2年次＞進学は「なりたい自分」に近づくための適性診断や自己分析、他己分析により自己理解を深め、小論文対策など自己表現力を高める。就職は就きたい職種から企業を調べ、プレゼンテーションで表現力を高める。また、来たるべき就職試験に向け面接練習を行う。また、進学就職共にボランティア活動や地域・学問探究、資格取得など自分磨きに励む。 ＜3年次＞進学は志望校から受験校へ変わり、志望理由書の作成、面接指導、受験カレンダーなどの作成により行動計画を立てさせる。就職は就職活動の一環として自己ピーアルの作成、挨拶練習、求人票の見方、履歴書の作成等を実施する。進学就職共に、3年間最後の進路ガイダンスで受験校や入社企業の比較等、最終確認をする。					
			就職意識の高揚を図るためのセミナー実施と外部機関とを連携させ、2年次に就職ガイダンスを2回、インターンシップを1回実施し、3年次には最後の職業別ガイダンスを2回実施している。生徒個人のキャリアアップに繋がるよう計画的な指導を行っている。	担任団と協力し、進路実現のために生徒自らが積極的に取り組むことができるようにする。具体的には、公務員対策講座参加、2社以上の会社見学や面接指導、履歴書の指導が挙げられる。					
	情報	教育情報化推進 情報活用能力の育成と教科指導におけるICT活用の推進と指導力向上	1人1台端末は2年生まで整備済みである。教科や授業によって、積極的に活用されている。その反面、活用されていない授業もある。また生徒も授業以外でも、活用できていない現状がある。	ICT機器を活用した授業の推進していく。また生徒の情報活用能力の育成、推進を行っていく。教職員だけでなく生徒への活用研修や相談会を学期に	ICT機器を活用した教育活動の推進を研修を通して実施する。また、生徒の情報活用能力を向上するような取り組みを実施していく。探究学習や部活動など自主的な活動にも活用を推進したい。そのための研修を行う。					
2. 基本的生活習慣と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	BLENDの入力によって出欠管理が行えるようになり、生徒の出欠状況が円滑に確認できるようになった。教員もBLENDを使用することには慣れてきたが、入力に漏れがあると正確な欠時数が把握できないため、小まめな確認が必要である。	担任・学年部長・授業担当者で連携を図り、出欠入力を徹底するとともに、欠時数が増える傾向にある生徒を把握し、早期の段階で生徒や保護者への指導を行う。	担任の先生には1日の終わりに全ての時限に出欠が入力されているかを点検して頂き、それを最終的に学年部長が確認して出欠一覧表を教務部に提出する。長欠や教育的指導の生徒についてのみ手書きでの記載をお願いしている。					
	生徒指導	校内外で社会的規範意識の確立	SNSによる生徒同士のトラブル。 通学時の自転車等のマナーや、近隣施設でのマナーの改善。	人間関係によるトラブルまたはマナーについては、人の気持ちを考えての行動や発言をさせる。生徒が主体的に考えられるよう意識さ	４月当初に「ネットモラル教室」においてネット被害や犯罪について考えさせる。SNSにおけるトラブル等についても生徒に訴えかけ指導していく。「交通安全教室」などにより自転車マナーの向上をはかる。					
3. すべての人にとって安全・安心な学校生活空間	生徒支援	自尊感情の育成・人権を意識した他者理解	生活アンケートやHyper―QUによる面談、教育相談から生徒の経過観察、働きかけを行っている。	自分も他人も大切に考え、安心できる学校生活を送ることができる。	生活アンケート内容の吟味、Hyper−QU実施とその結果への早期対応、関係委員会での迅速な対応を行う。また職員研修を行うとともに、人権啓発ポスターの掲示も積極的に行う。					
	環境美化	SDGsの理解と実践	校舎内のゴミの分別を正しく行うように心がける。また，教室を含め校内外の美化に務めるよう意識を高めている。	環境・健康やエネルギー問題を意識し，実践できるようになる。また，物を大切に使用し，公共の場の美化に努める行動がとれるように	ポスターの作成など啓発活動を通し，ゴミの分別や、ゴミを減らしたり，節電や清掃活動など，環境を考えた行動や，健康やエネルギー問題を意識した行動がとれるようになる。					
	事務	施設の整備・点検	施設設備の老朽化により、生徒・職員の安心・安全にいくつかの問題がある。	・温暖化・異常気象に伴う空調機器の更新。 ・電気代高騰に伴う省エネかつ安全対策による教室LED電球化。	・補助金活用による、空調機器更新。 ・予算計画による教室LED化。 ・その他老朽化場所・機器等の更新・修繕等。					
4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり	総務	情報発信の強化・保護者との連携	新型コロナウイルス感染症に対する扱いが5類に移行したことを受け、生徒募集関係の行事をより充実させるべく企画立案を進めている。教育振興会活動においても、これまで中止していた活動の実施を目指し、各種行事の計画に取り	効果的な情報発信の仕方を工夫するとともに、保護者参加の活動機会を増やすことで、広く本校教育に理解いただき、協力体制を強化する。	パンフレットの内容など広報のあり方を見直し、生徒募集に対する効果を検証する。中学校対象の説明会やオープンスクールの内容を充実させ、本校教育について広くアピールする。また、機関紙「北振」、登校視察、交流会等の教育振興会活動を通して保護者との連携を強					
	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われている予定である。	地域からの活動依頼に積極的に応えると共に、本校発案の活動に取り組んでいく。	あいさつ運動の実施や地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的に行っていく。					
	生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	門前指導により、挨拶励行や交通マナー改善、服装指導を実施している。自転車マナー、服装指導には改善が必要である。	交通ルールを厳守し、日頃より事故のないように心がけさせる。地域の方々や周りの人への挨拶を積極的に行うようにしていく。	先生方のご協力により、毎朝の門前指導(挨拶・交通マナー・服装指導)を実施し生徒の規範意識を向上させる。また、マナーアップ活動により生徒会、各委員会や地域の協力も得て、生徒自身が主体的に行動できるようにする。クラスでも担任発信によりマ					
5. 特色ある教育の推進	看護	医療・福祉機関との連携	・新型コロナ感染症の取り扱いが5類になったとはいえ、引き続きの感染予防対策が必要であることやかぜ症状の際の取り扱いも実習中では各施設で異なることがある。引き続きの調整が必要である。 ・看護師国家試験の合格率も第112回は低かった。何とか、100%に向けて指導が必要	・感染予防対策の徹底、かぜ症状などの把握と対処 ・看護師国家試験　学習指導	・感染予防対策の徹底　指導 ・かぜ症状などの際の報告、必要に応じて受診をし、早期に対処していく。 ・国家試験　模試の効果的な利用、模試後の勉強会の実施 ・e−テキストを利用した国家試験指導 ・e−テキスト利用の検討					
	探究学習	地域連携・地域課題への取り組み	新教育課程の展開2年目となり、1・2年は毎週各コース1単位の探究学習に取り組む。3年生は現行の教育課程による探究学習を維持展開する。	コースの探究テーマに則した指導に組む中で、協働して取り組む力、アウトプット力など人間力を高めることを目標とする。	カリキュラムの枠を超えて、様々なイベントに参加する中で、地域が抱える課題を発見し共に考え、課題解決の方法を探っていきたい。					

評価基準　A:：十分に達成している　B：概ね達成している　C：取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない　D：より一層のまたは新たな方策が必要である